
終わりは知らない

岬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わりは知らない

【Nコード】

N5068D

【作者名】

岬

【あらすじ】

ゆるやかな終わりに近づく少年と少女。ただこの1日だけがすべて。

人間の一生にどれだけ喜びがあるか。哀しみがあるか。
決まってなんかない。
だから、この一瞬一瞬を“楽しい”にしていきたいと思う。
ただ、それだけ。

清潔な、白を基調とした部屋の片隅にあるベッドの上。
今日も空を眺めていた少女は、ドアを開く音がした方向に意識を
向けた。

ドアの向こうから現れた姿に、彼女は瞳を輝かせる。

「今日も来てくれたんだ！」

「おう。あつたりめー」

ドアから現れた少年は、少女の居場所であるベッドに、坊主頭を
かきつつ近付いた。

照れ臭そうに、腕をつきだす。
すでに習慣とも言える仕草だ。

「やる。いつも金かかって無くて悪いけど」
「わあ、ありがと」

少年からガサツそうな見た目にそぐわない可憐な花が、少女に渡

された。

彼には嬉しそうな少女の姿に、その白くて儂げな花びらが重なって見える。

どうしていつもこの花かという少女の疑問には、真面目に答えたことはないけれど。

「ほんとにありがと。1日の中で、1番、うれしい」

「おおげさ」

「あ、信じてない。ほんとだよー！」

「ふん、まあお前の喜びよう見てたらなんとなく分かる」

「あ、今度はちょっと自意識過剰ー」

何気ない会話に、少女の表情はくるくる変わる。

毎日見ていると決して飽きることはない。

少年は思う。

叶うなら、ずっとずっと、側で見たい、と。

少年にとっても、彼女と過ごす時間が一番楽しくて、大切だから。

他愛もない話で、今日も、瞬く間に時が過ぎる。

すっかり闇に覆われた空を見て、少年はゆっくりと腰をあげた。

毎日思ふことはひとつ。

今日は本当に楽しかったということ。

「じゃあな。また来る」

「ん。待ってるよ。またね」

笑顔でひらひら手を振る少女の姿が、なぜか強く少年の目に焼きついた。

そこだけ切り取られて、永遠に残るかのようにさえ思えた。

変わらないものなど、何もないとわかっているのに。

不意に体の奥で、悲しみがわきあがりそうになり、少年は暗くなりそうな気持ちを閉ざした。

今感じてる幸せを、邪魔するものはいらない。

少年は、軽く少女の柔らかい黒髪を撫でると、部屋を出た。

パタン、と音を立てて扉を閉じると、何事もないように歩き始めた。

終わりになんて、考えなければ、存在しないと同じこと。
もっと大切なものがある。
今はそれだけでいい。

”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5068d/>

終わりは知らない

2010年12月14日15時13分発行